

## インフォーマルミーティング報告 第5回計算科学研究部会総会

当学会計算科学研究部会の第5回総会が、Plasma Conference 2017のインフォーマルミーティングとして、2017年11月23日（木）の昼休み時間帯に開催された。計算科学研究部会の部会員数は54名であり、今回の出席者は部会員以外も含めて24名であった。部会長の福山淳（元京大）より、任期2年の部会長と幹事の改選について報告があり、部会員による投票（投票総数：34名）の結果、部会長に渡邊智彦（名大，新任），幹事に石黒静児（核融合研，新任），矢木雅敏（量研，再任），浜口智志（阪大，再任），長友英夫（阪大，再任）が選任された。事業報告として研究部会メールの配信とWebサイトの運用の現状が報告され、事業計画としてそれらの継続と計算科学教育の推進が提案され、いずれも承認された。引き続き、石黒静児氏（核融合研）がHPCIコンソーシアムの活動について報告し、今後のHPCIシステムの整備・運用のあり方についての意見交換とHPCIシステムの今年度の運用方針が報告された。そして、核融合研のプラズマシミュレータとその運用状況について石黒氏が、また六カ所研における核融合専用計算機の現状と来年6月導入予定の新計算機について矢木雅敏氏（量研）が報告した。さらに、プラズマ応用分野における高速シミュレーションの必要性和半導体パラダイムシフト、データサイエンスの重要性について浜口智志氏（阪大）が、レーザー光量子分野における計算機環境と共同開発・共用環境の動向を長友英夫氏（阪大）が報告した。最後に、計算科学研究部会の今後のあり方について議論が行われた。主な発表資料は <http://bpsu.nucleng.kyoto-u.ac.jp/dcsr/> に掲載されている。（世話人：福山淳）